

## 令和6年度第1回大磯町総合計画審議会結果概要

- 日時 令和6年7月8日（月）午前10時00分から午前11時00分まで
- 場所 大磯町役場本庁舎4階第1会議室
- 出席者（会長）成田委員（学識経験者）  
（委員）鈴木祥弘委員（学識経験者）  
戸塚委員（農業委員会会長）、小泉委員（区長連絡協議会会長）  
鈴木豊男子委員（社会福祉協議会会長）、大塚委員（観光協会副会長）、  
立石委員（PTA連絡協議会）、岩田委員（中郡医師会理事）、  
小清水委員（中南信用金庫常勤理事）、
- 事務局 政策総務部参事（政策担当）、政策課長、政策課担当職員
- 傍聴者 0名
- 議題（1）第五次総合計画後期基本計画策定方針について

### ○会議記録

#### 1. あいさつ

- ・会長あいさつ

本日の審議会の案件は1点「第五次総合計画後期基本計画策定方針について」である。こちらは、現計画「大磯町第五次総合計画前期基本計画」が令和7年度で終了となることから、今年度より次期計画となる「後期基本計画」の策定が始まっているので、その方針について、事務局より報告がある。

#### 2. 報告

##### （1）第五次総合計画後期基本計画策定方針について

資料1に基づき第五次総合計画後期基本計画策定方針について事務局から説明を行い、次のとおり質疑応答が行われた。

- ◎ 町民アンケートの実施について、転入者はどのような範囲が対象となっているのか。（委員）
- 転入者アンケートの対象者は直近5年間で転入をされた方500名を無作為抽出している。（事務局）
- ◎ 資料1の「4. 総合計画の構成」の概要図に“デジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案”と記載されている。こちらは「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、2023年度を初年度とする5か年の総合戦略を新たに策定するということであるが、概要を事務局より説明してほしい。（会長）

- 以前から各自治体は国の総合戦略に沿った「地方版総合戦略」を策定しなければならず、今回、国が新たに「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定したことに伴い、本町も国が位置付けた施策の方向に沿った総合戦略を策定しなければならない。本町は総合計画の“基本計画”を国の総合戦略の施策の方向に沿って計画を策定することで、“地方版総合戦略”として位置付けを行っている。そのため、概要図の“新規プロジェクト”は、デジタル田園都市国家構想総合戦略を踏まえながら位置付けをしていく。(事務局)
- ◎ デジタル田園都市国家構想総合戦略を確認すると、以前の総合戦略とは内容が大きく変わっている。前期基本計画と同じように地方版総合戦略として位置付けができるのか疑問に感じており、デジタル田園都市国家構想総合戦略に沿った“デジタル化”をどのように位置付けていくのか。(会長)
- 以前の総合戦略とは内容は大きく変わっているが、施策の方向(①地方に仕事をつくる、②人の流れをつくる、③結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④魅力的な地域をつくる)は同じである。まず、本町として、この4つの施策の方向を踏まえた取組みを位置付けていきながら、その各取組みについてどのようにデジタル要素を加えていくのかという視点を踏まえながら、計画策定を進めていく。(事務局)
- ◎ 前計画で進めてきた施策にデジタル要素を加えていくこと、デジタル要素を加えた新たな施策を位置付けることなど考慮する点が多くある。(会長)
- ◎ デジタル田園都市国家構想総合戦略にあるデジタル化は、デジタル機器を活用していくことなのか、アナログで実施している取組みをデジタルにすることなのか、どのような点を指しているのか。(委員)
- ◎ デジタル技術を活用するという視点である。例えば、町の相談窓口にAIを活用する等が想定されている。(会長)
- ◎ 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略にデジタル技術を活用して施策を進めていくと捉えれば基本的な方針は変わらない。(委員)
- ◎ デジタル田園都市国家構想総合戦略の基本的な考え方として、デジタル技術を活用して「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指すとある。(会長)
- ◎ 基本構想は10年間であり大きな方向性(施策の大綱等)は変わらない。そのため、後ろ5年間の取組みにどのようにデジタル技術を活用していくのかという視点を持つことが重要である。単にデジタル化を進めていくということではない。また、今後、新庁舎整備もあることから、後期基本計画策定後にデジタル化を進めるのではなく並行して考えていく必要がある。(委員)
- 前期基本計画の策定は新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めた時であった。

現在、新型コロナウイルス感染症も収束し、デジタル技術を活用して対面でなくてもサービスを提供できるような施策を国が進めている。本町としても施策を進めていくにあたり、1つの手段としてデジタル技術を活用していく。現段階では、資料1「4. 総合計画の構成」にまだ記載のない「めざす方向性」や「重点プロジェクト」を決めていくにあたり、どのようにデジタル技術を活用していくのか、各委員から御意見を頂戴する。新庁舎整備等も含め各施策について、町民の利便性の向上、職員の事務の効率化、デジタルの適応が難しい方々への対応を踏まえながらデジタル化を進めていきたい。(事務局)

- ◎ 数年前からデジタル化を全国的に進めていると思うので、計画策定に合わせてではなく、今から始められる取組みは順次進めてほしい。例えば、デジタルの適応が難しい方が一定数いるため、スマホ教室等のデジタル技術に触れる機会を増やしてほしい。数年前までは本籍地に行かなければならなかった戸籍謄本の請求が、デジタル化が進み、住所地で取得できるようになった等、デジタル化することで住民サービスの向上につながっていることが多くある。(委員)
- ◎ 今回の議題は策定方針の報告であり、細かな取組みについて議論することは難しい。今後、町で策定する骨子案等を踏まえて意見等を言うべきである。(委員)
- お話のとおり、今回は策定方針を報告することが目的であり、細かな取組みの御意見を頂戴することは想定していない。また、町が策定した「大磯町デジタル化推進計画」においても、誰もが取り残されることなく人に優しいデジタル化を目指すとしていることから、デジタルの適応が難しい方々への対応も必要であり、本町では高齢者の方を対象にスマホ教室を既に開催している。(事務局)
- ◎ 国の交付金の中で「デジタル田園都市国家構想交付金」というものがあるが、大磯町の活用実績や活用に向けた調査等は実施しているのか。(委員)
- デジタル田園都市国家構想交付金の活用実績はない。調査等については、総合計画実施計画書に位置付けられている事業を中心に活用できるかどうかを所管課と政策課で確認している。(事務局)
- ◎ デジタル化は良い面と悪い面がある。例えば、コールセンターでは相談するまでに何回も自動案内があり手間がかかる。これは人件費削減や事務の効率化を考慮して導入されていると思うが、一方で利便性に欠けている点があり、本末転倒である。町としてもデジタル化を進める際には、住民サービスの利便性と費用や事務の効率化を比較しながら進めてほしい。(委員)
- ◎ デジタル化を進めることを重視しすぎること、住民サービスが低下することもある。デジタル化を進めるとともに、デジタル人材を育成・確保していくことも必要である。デジタル人材の確保は難しいとは思いますが、デジタル環境を整備しても上手く使いこなせないと本末転倒である。今後の話であるが、施策の進捗を

図るK P Iについても、デジタル化の進捗がわかるような数値にしていかなければならない。(会長)

- ◎ 具体的な話を例にすると、富士見地区の路線バスが廃止になるため、今後は乗合いタクシーを利用することになる。乗合いタクシーの申請において、利用者が町に申請をしてタクシーを配車するようなアナログ的なやり方と時間ごとにタクシーを自動で配車するデジタル的なやり方がある。どちらが良いのかということは、その都度検討する必要がある、受付やマネジメントにかかる人件費と、町民サービスの利便性をよく考えたいで行う必要がある。(委員)
- ◎ デジタルを活用した交通システムは可能と言われているが、大磯町において、それが良いのかどうかは試行錯誤して進めていくべきである。(会長)
- ◎ 乗合いタクシー以外の新たな交通システムを整備する話にもなっていたが、人手が足りないことなどが問題となっていた。しかし、大磯町の施策として今後位置付けられる分野であるため考えていかなければならない。(委員)
- ◎ 今回の審議会でも個別の取組みの話をして議論ができない。骨子案など事務局から提示された段階で議論するのはどうか。(委員)
- ◎ 細かな取組みを議論する段階ではないが、問題意識を持ちながら、今後位置付ける施策の項目出しは良いと感じる。(会長)
- ◎ 議論がだせない段階であるのは理解しているが、骨子案などは町側で議論をして完成に近い形で報告される。今の段階で話すことで、その意見等を反映した施策の位置付けがされるかもしれない。(委員)
- 別紙「大磯町第五次総合計画後期基本計画策定スケジュール(案)」のとおり、町民アンケートや基礎調査・分析の結果を次回の審議会でも報告する予定である。その際は骨子案の作成に向けて、より具体的な施策を示すことができると思うので各委員の御意見を頂戴したい。また、総合計画は町の最上位計画となり、その下に大磯町地域公共交通計画などの個別計画がある。そのため、各委員の御意見と、町の個別計画との整合を図りながら施策を位置付けていきたい。(事務局)
- ◎ 計画策定を進めるにあたり、デジタル田園都市国家構想総合戦略の概要についても資料を提供いただきたい。(委員)
- ◎ デジタル田園都市国家構想総合戦略の内容はあまりにも大きい話のように感じる。それを大磯町の総合計画にどう落とし込むのかわかるように示してほしい。(委員)
- デジタル田園都市国家構想総合戦略の概要がわかる資料を今後、共有させていただく。(事務局)
- ◎ 資料1「2. 計画の基本方針」の「(5) 計画の進行管理体制」でPDCAマネジメントサイクルを今後も継続していくとあるが、計画策定の際には、事業の

進捗が図れて評価がしやすい数値目標（K P I）を設定してほしい。（委員）

- ◎ 数値目標（K P I）の設定は、計画期間中に変更の有無や設定した経緯を整理してほしい。数値目標（K P I）の変更については、時代の流れに柔軟に対応できるように町側でも検討していただきたい。また、本審議会で出た意見・要望に対しては、次回の審議会の場で結果等の報告をお願いしたい。特に、移住に関する取組み等はインフラ整備とは異なり結果が見えづらいので、本審議会で出た意見をどう反映させたのか進捗がわかるようにしてほしい。（委員）
- 移住に関する取組みに限らず、結果が見えづらい事業は、次回の審議会で調べた結果等を審議会後に共有をさせていただく。また、数値目標（K P I）の設定は各所管課と調整して決めた経緯がある。今回の計画策定の際には、進捗が図れないような数値目標（K P I）は設定するべきではないと事務局として考えているため、その点を踏まえて今後検討していきたい。（事務局）
- ◎ 先ほど、デジタル人材の育成・確保についてお話があったが、30年程前からインターネットの技術者を確保するため、経済産業省が出している「ITパスポート」という資格がある。町職員も取得することでデジタル人材の確保につながると感じる。また、デジタル環境の整備として、役場に太い回線を1つ設置することが重要である。新庁舎整備においては、事業者と相談して太い回線を整備することを検討した方がよい。（委員）

### 3. その他

事務局から次回の総合計画審議会の日程について事務連絡を行った。

以上